

I イサクの信仰

1. アブラハムが、イサクを縛った時（創世記22：9）、イサクは、それをいやがり、足をばたばたさせている姿を想像するのは間違いだろう。
なぜなら、イサクは、この時、力の強い青年期であり、アブラハムは、もう高齢で力は弱かった。
イサクは、自分が、いけにえになる事に同意して縛られた。十字架上のイエス様を思い出させる！
従順な信仰をここに見る。
2. 創世記26：17からのみことばで、ゲラルの羊飼いたちと井戸の所有権の事で争いになった時、イサクは、平和を愛する人で、自分への敵意は、神への敵意と受け止め、一切を主に委ね、他の井戸を掘る努力をした。この平和を愛する信仰にも教えられる。
3. ヘブル11：20。
その時点では現実となっていない「未来」の事について祝福した（創世記27：28、29）のは、「目に見えないものを確信させる」信仰の現れである。

II ヤコブの信仰

1. ヤコブは父を欺き、兄エサウの祝福を横取りした。創世記27：18～。
しかし、その^{するがしに}狡猾いヤコブは、もっと狡猾いらバン（母親の兄）から何度もだまされて、神の訓練を受ける。
神は、時々、私達の欠点と似た欠点を持つ人とのぶつかりの中で、私達の高ぶりを砕き、訓練し、成長させられる。
「主はその愛する者を訓練し」ヘブル12：6
2. 兄エサウの復讐から守られる為の人間的な知恵の策。
 - ①「兄エサウへの贈り物にするものを選び出した」創世記32：13。
 - ②「しもべたちに言った。『私の先を進め。群れと群れの間には距離を置け』」32：16。
 - ③「『ご覧ください。ヤコブもうしろにおります』と答えよ。」32：18。
 - ④「こうして贈り物は彼より先に渡って行ったが、彼自身は、その夜、宿営にとどまっていた」32：21。
 - ⑤「彼らを連れ出して川（ヤボクの川）を渡らせ、また自分の所有するものも渡らせた。
ヤコブが一人だけ後に残ると、ある人が夜明けまで彼と格闘した」32：23、24。
そしてヤボクの渡し場で、神と格闘し、自分の罪の肉力的力、考え方で生きようとする自我が砕かれた。
 - ⑥「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださなければ」32：26。
この祈りには、神との格闘の祈りの末に彼が変えられた姿がある。
ヤコブは、神に信頼しきれず、兄エサウから自分が守られる事ばかり考えていた。先程見た御言葉からもわかる。
しかし、彼は神との格闘の末、祈りの内容が変わった。
状況は同じでも、彼自身が変えられた。
彼は「兄エサウの復讐から私を守って下さい」とは願っていない。「私を祝福してください」と願った。
これは、「いつも、あなたに頼らず、自分の策に頼る私を変えて下さい。わたし自身の心を祝福し、新しくして下さい、神であるあなたとの幸いな交わりを持つ私に変えて下さい」という祈りと願いである。
ここに深い御言葉の意味がある。
ヤコブは、神との格闘の祈りをして、彼自身が新しい人に変えられ、神と交わり神に信頼し、神にすべてを委ねて前進するものに変えられた。その姿が次の御言葉に示されている→

「ヤコブは自ら彼らの先に立って進んだ。彼は兄に近づくまで、七回地にひれ伏した」33：3。

私達も、自分の悟り、考え、人間的な策ではなく、まず、人や状況が変えられる事を求めるのではなく、まず、自分自身が変えられ、神の幸いな交わりを持ち、神のお考え、御力に信頼する者に変えられたい。

3. ヘブル11：21。

死ぬ時も他の人を祝福できるとは、神への信仰の力。創世記47：29。

普通なら、逆に、生きている人に「自分のために祈って欲しい」と頼むだろう。ここにも、神の約束を信じて、ひたすら待ち望む信仰がある。

Ⅲ ヨセフの信仰

1. 彼の生涯は、試練の連続だった。しかし、その中で、いつも主を信頼し、主もまた、どんなにつらい時も彼と共におられた。

2. ヨセフの試練。

①兄達からねたまれ、袖着きの長服をはぎ取られ、穴に投げ込まれ、エジプトに売られた。

②エジプト人ポティファルの家で忠実に仕えた。

しかし、その主人の妻から不品行の誘惑を受けた。彼は、神を恐れ敬い、その誘惑に負けなかった。ところが、その主人の妻は、嘘をつき、彼に、不品行のぬれぎぬを着せた。

③その主人の怒りを買って、王の囚人の監獄に入れられる。

しかし、そこでも、主は彼と共におられた。創世記39：2-3、21-13。

そこでも、やけにならず、監獄の長から信頼される生活をした。

そして、そこに入れられた献酌官長の夢を神のお力で解き明し、助けてあげた。

④しかし、その恩も忘れられてしまう。創世記40：23。

しかし、神は生きておられ、見離されない。

その2年後、忍耐の末に、ファラオ王の夢を神のお力で解き明かし、王に見込まれ、囚人から王の次の地位の国の総理大臣となる。

※残念ながら、今の日本の総理大臣、各国の指導者は、信頼に欠ける人々が多いが、ヨセフは、偉大な神に仕える本物の立派な人だった。創世記41章。

⑤そして彼は、後に、あのひどい事をしたお兄さん達を赦し、父ヤコブをエジプトに迎える。

彼は、どんなことがあっても、すべてを支配し、益として下さる神を、いつも信頼していた

=「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。

それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです」創世記50：20。

このヨセフの姿を見ると、イエス様の忠実なしもべの姿と真の王の姿を思い出させられる。

3. 「信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました」ヘブル11：22。

彼は、信仰によって、エジプトが自分にとって寄留の地にすぎない事を知り、ひたすら神の約束を待ち望んだ。

Ⅳ まとめ=神は、どんなにつらい試練の中でも、私達と共におられて支えて下さる。

どんな時も、すべてを支配し益として下さる神を信頼しよう！

人や状況が変えられるように祈る前に、まず、私を変え続けて下さいと祈りたい！

また、死を目の前にしても、失望する必要はない。地上での死は、神の約束の天国への入口である。

誠の神への信仰は勝利！